

## 郊外住宅地に居住する高齢者の外出行動 (Ⅱ) －盛岡市松園地域を例に－

高橋宏一・土田美奈子\*

- I. はじめに
- II. 調査の目的と方法
- III. 高齢者の属性と外出手段
- IV. 高齢者による居住地区の生活環境評価
- V. 高齢者の生活スタイル (以上前号)
- VI. 高齢外出者の目的別外出行動 (以下本号)
- VII. 全外出度数からみた高齢者の目的別外出行動
- VIII. 総外出度数からみた高齢者の外出行動の促進要因と抑制要因－まとめにかえて－

### VI. 高齢外出者の目的別外出行動

ここでは、食料品買物、衣料品買物、生活用品買物、通院、趣味活動、友人・知人宅訪問、散歩の7つの外出行動毎に、外出者の行動の特徴をみていく。非外出者を含めた高齢者全体の外出行動については、次の「VII. 全外出度数からみた高齢者の目的別外出行動」で述べることにする。

まず外出者率(月に1回以上外出する人の割合)、外出者一人あたりの外出先数、一月平均の外出度数から各外出行動の特徴についてみていく。次いで、外出先の所在地、外出頻度、外出先までの主な交通手段の実態について整理し、高齢者の属性や生活環境評価、生活スタイルとの関連を見ていく。なお、外出者率、外出者一人あたりの外出先数、一月平均の外出度数については、各外出行動が比較しやすいように、各々一つの表にまとめて表6、表7、表8に示した。

なお、外出先の所在地は、「松園地域内」<sup>13)</sup>、「松園周辺地域」<sup>14)</sup>、「市中心部」<sup>15)</sup>、「その他の地域」<sup>16)</sup>に4区分した。「松園地域内」とは松園ニュータウン地域内、「松園周辺地域」とは北松園・

---

\* 青森県警察本部

13) 「松園地域内」では、地域中心部にある「いわて生協松園店」(店舗面積2,231㎡、駐車台数102台、2008年10月にリニューアルオープン)を中心に、個人商店、飲食店、サービス店、銀行、病院・医院、地区活動センター、児童館などの商業、サービス、公共施設等が集積している。地域中心部以外では、商店、サービス店、銀行、医院等は分散的に立地している。

14) 「松園周辺地域」とは、北松園・小鳥沢、黒石野、緑が丘を含む地域を指す。この地域内には、「緑が丘ショッピングセンター」(店舗面積11,114㎡、駐車台数411台、核店舗は川徳)、スーパーマーケットマルイチ緑が丘店(店舗面積2,175㎡、駐車台数94台)、ユニバースサンタウン松園店(店舗面積3,684㎡、駐車台数173台)などの大規模小売店舗が分散立地している。個人商店や、サービス店、公共施設等も全体的に分散して立地している。

小鳥沢, 黒石野, 緑が丘を含む地域, 「市中心部」とは大通・菜園, 肴町, 駅前などを含む地域, 「その他の地域」とは上記3地域以外の地域を指している。

### 1. 食料品買物の外出行動

#### (1) 外出行動の特徴(表6 表7 表8)

- ・食料品の買物のために月に1回以上外出する人の割合(外出者率)は92%。男性は91%, 女性は93%で, 性別による差はほとんどない。年齢による差も80歳以上の男性(67%)を除けば, あまりない。
- ・外出者一人あたりの外出先数は2.1箇所と, 他の外出行動と比べて最も多い。
- ・外出者一人あたりの月平均外出度数は12.2回で, 他の外出行動と比べて最も多い。性別では, 女性の13.3回に対し, 男性は11.2回と少ない。

表6 外出行動別の外出者率

外出行動 性別・年齢	食料品 買物	衣料品 買物	生活用 品買物	通院	趣味 活動	実人数 実人数に対する割合(%)		実人数
						上段 下段	友人・ 知人宅 訪問	
男65～69歳	70 94.6	44 59.5	53 71.6	51 68.9	40 54.1	35 47.3	42 56.8	74
男70～74歳	43 93.5	27 58.7	36 78.3	40 87.0	25 54.3	23 50.0	24 52.2	46
男75～79歳	32 88.9	17 47.2	22 61.1	30 83.3	21 58.3	14 38.9	22 61.1	36
男80歳以上	10 66.7	6 40.0	5 33.3	12 80.0	8 53.3	4 26.7	5 33.3	15
男性 計	155 90.6	94 55.0	116 67.8	133 77.8	94 55.0	76 44.4	93 54.4	171
女65～69歳	64 94.1	58 85.3	50 73.5	55 80.9	46 67.6	53 77.9	33 48.5	68
女70～74歳	40 95.2	31 73.8	24 57.1	30 71.4	26 61.9	23 54.8	14 33.3	42
女75～79歳	26 86.7	18 60.0	17 56.7	27 90.0	20 66.7	15 50.0	9 30.0	30
女80歳以上	17 85.0	14 70.0	8 40.0	14 70.0	10 50.0	8 40.0	4 20.0	20
女性 計	149 93.1	121 75.6	99 61.9	126 78.8	102 63.8	99 61.9	60 37.5	160
合計	304 91.8	215 65.0	215 65.0	259 78.2	196 59.2	175 52.9	153 46.2	331

※性別未詳1人

- 15) 「市中心部」とは, 大通・菜園, 肴町, 駅前などを含む地域を指す。県庁所在都市盛岡における経済・文化・行政の中心地域である。しかしながら, 人口の郊外化や盛岡盛南地域における新都心地区の開発に伴い, 商業の急激な地盤沈下が生じている。この地域内で店舗面積が1万㎡を越える商業施設は, 川徳ショッピングセンター(店舗面積23,783㎡, 駐車台数843台), 中三盛岡店(店舗面積17,126㎡, 駐車台数60台), 盛岡駅ビル・フェザン(店舗面積16,916㎡, 駐車台数542台)の3店である。
- 16) 「その他の地域」とは, 上記3地域以外の地域を指す。商業施設では, イオンモール盛岡(店舗面積37,195㎡, 駐車台数2,307台)やイオン盛岡南ショッピングセンター(店舗面積39,800㎡, 駐車台数2,700台)をはじめとする大規模小売店舗が多数立地している。前者が位置する前湯地区は, 東北高自動車道盛岡I.C.に近く, 多数の商業・サービス施設が集積している。後者が立地する盛南地域は, 商業・サービス施設だけでなく, 市立病院, 県立美術館などの公共施設も集積し, 新都心地区を形成しつつある。

表7 外出行動別の外出先数

外出行動 性別・年齢	上段 延外出先数 下段 外出者1人あたりの外出先数					
	食料品 買物	衣料品 買物	生活用 品買物	通院	趣味 活動	友人・ 知人宅 訪問
男65～69歳	144 2.06	66 1.50	73 1.38	77 1.51	55 1.38	55 1.57
男70～74歳	94 2.19	38 1.41	55 1.53	66 1.65	43 1.72	34 1.48
男75～79歳	58 1.81	27 1.59	37 1.68	47 1.57	28 1.33	19 1.36
男80歳以上	22 2.20	9 1.50	9 1.80	21 1.75	12 1.50	6 1.50
男性 計	318 2.05	140 1.49	174 1.50	211 1.59	138 1.47	114 1.50
女65～69歳	154 2.41	102 1.76	85 1.70	85 1.55	83 1.80	90 1.70
女70～74歳	71 1.78	49 1.58	32 1.33	41 1.37	43 1.65	38 1.65
女75～79歳	51 1.96	28 1.56	20 1.18	41 1.52	24 1.20	24 1.60
女80歳以上	33 1.94	20 1.43	11 1.38	23 1.64	17 1.70	12 1.50
女性 計	309 2.07	199 1.64	148 1.49	190 1.51	167 1.64	164 1.66
合 計	627 2.06	339 1.58	322 1.50	401 1.55	305 1.56	278 1.59

表8 外出行動別の外出者一月あたり外出度数

外出行動 性別・年齢	食料品 買物	衣料品 買物	生活用 品買物	通院	趣味 活動	友人・ 知人宅 訪問	散歩
男65～69歳	10.6	2.2	2.9	3.1	6.4	3.1	12.6
男70～74歳	13.5	1.7	3.4	2.7	5.8	3.4	12.0
男75～79歳	9.5	2.4	2.5	1.9	9.1	3.0	9.1
男80歳以上	11.4	1.9	3.5	5.3	9.9	1.9	14.0
男性 計	11.2	2.1	3.0	2.9	7.1	3.1	11.7
女65～69歳	14.3	2.5	3.5	2.0	8.4	4.4	11.3
女70～74歳	13.2	2.8	2.8	3.0	7.3	5.9	9.4
女75～79歳	13.2	2.7	4.3	2.4	6.4	3.6	5.9
女80歳以上	9.6	2.8	1.9	3.8	10.1	2.3	8.8
女性 計	13.3	2.6	3.4	2.5	7.9	4.4	9.9
合 計	12.2	2.4	3.2	2.7	7.5	3.9	11.0

(2) 外出先の所在地(表9-①)

- ・食料品の買物先の所在地は、「松園地域内」(45%)と「松園周辺地域」(42%)が大半を占める。性別や年齢によって外出先所在地にあまり差はないが、80歳以上の女性の1/4が、「市中心部」で食料品の買物をしていることが特徴的。
- ・車の運転ができる人の外出先所在地は、「松園地域内」(42%)よりも「松園周辺地域」(46%)の方が多く、運転できない人は、「松園地域内」(48%)の方が「松園周辺地域」(37%)よりも多い。

- ・居住地区の買物環境の評価が低い人の外出先所在地は、「松園地域内」が39%と相対的に低く、その分「その他の地域」が13%と比較的高い。

表9-① 性別・年齢別にみた食料品買物の外出先所在地

外出先所在地 性別・年齢					上段	延人数(人)
					下段	構成比(%)
	松園 地域内	松園周辺 地域	盛岡市 中心部	その他 の地域	合 計 (延人数)	回答者数 (実人数)
男65～69歳	56 38.9	67 46.5	6 4.2	15 10.4	144 100.0	70
男70～74歳	40 42.6	42 44.7	10 10.6	2 2.1	94 100.0	43
男75～79歳	34 58.6	20 34.5	2 3.4	2 3.4	58 100.0	32
男80歳以上	8 36.4	9 40.9	2 9.1	3 13.6	22 100.0	10
男性 計	138 43.4	138 43.4	20 6.3	22 6.9	318 100.0	155
女65～69歳	69 44.8	70 45.5	6 3.9	9 5.8	154 100.0	64
女70～74歳	34 47.9	27 38.0	7 9.9	3 4.2	71 100.0	40
女75～79歳	26 51.0	21 41.2	3 5.9	1 2.0	51 100.0	28
女80歳以上	12 36.4	10 30.3	8 24.2	3 9.1	33 100.0	17
女性 計	141 45.6	128 41.4	24 7.8	16 5.2	309 100.0	149
合 計	279 44.5	266 42.4	44 7.0	38 6.1	627 100.0	304

## (3) 外出先の所在地と外出頻度(表9-②)

- ・食料品買物の外出頻度は、外出先の所在地によって異なる。「松園地域内」の店舗で買物する人は、週2～3回を中心に、週1回以上の人が多い。「松園周辺地域」で買物する人は、月2～3回ないし週1回程度の人が多い。「市中心部」や「その他の地域」での外出頻度は、月1回～週1回程度の人が多い。

表9-② 食料品買物の外出先所在地と外出頻度

外出頻度 外出先所在地						上段	延人数(人)
						下段	構成比(%)
	月1回	月2～3回	週1回	週2～3回	週4回以上	合 計 (延人数)	
松園地域内	20 7.2	35 12.6	73 26.3	118 42.4	32 11.5	278 100.0	
松園周辺地域	40 15.4	101 38.8	73 28.1	39 15.0	7 2.7	260 100.0	
市中心部	10 22.7	14 31.8	13 29.5	5 11.4	2 4.5	44 100.0	
その他の地域	8 21.1	20 52.6	6 15.8	1 2.6	3 7.9	38 100.0	
合 計	78 12.6	170 27.4	165 26.6	163 26.3	44 7.1	620 100.0	

## (4) 外出先の所在地と交通手段(表9-③)

- ・食料品の買物先までの交通手段も、外出先の所在地によって異なる。「松園地域内」での買物は、徒歩が54%と最も多く、次いで自分運転の車が32%。

- ・ただし、「松園地域内」での買物の交通手段は、居住地区と松園地域中心部との位置関係に影響され、中心部に近い中央地区では、徒歩81％、車(自分運転、他人運転)13％であるが、最も遠い南部地区では、徒歩28％、車(自分運転、他人運転)69％と逆転。
- ・「松園周辺地域」へは、車の利用が多い(自分運転の車61％、他人運転の車19％)。「市中心部」へは、自分運転の車が42％で、バスが33％。「その他の地域」へは、車の利用が大半(自分運転の車65％、他人運転の車35％)。

表9-③ 食料品買物の外出先所在地と交通手段

交通手段 外出先所在地	自分運転 車	他人運転 車	徒歩	自転車	バス	上段 延人数(人) 下段 構成比(%)	
						タクシー	合計 (延人数)
松園地域内	89	25	149	12	2	0	277
	32.1	9.0	53.8	4.3	0.7	0.0	100.0
松園周辺地域	157	49	20	6	26	1	259
	60.6	18.9	7.7	2.3	10.0	0.4	100.0
市中心部	18	9	0	1	14	1	43
	41.9	20.9	0.0	2.3	32.6	2.3	100.0
その他の地域	24	13	0	0	0	0	37
	64.9	35.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	288	96	169	19	42	2	616
	46.8	15.6	27.4	3.1	6.8	0.3	100.0

(5) まとめ

食料品の買物へは、一人あたり平均して週2～3回程度行く。外出行動の中では最も頻繁に行われるため、近隣の「松園地域内」での買物が最も多いのは当然であるが、「松園周辺地域」で買物する人やその頻度が意外に多い。外出先までの交通手段は、「松園周辺地域」で買物する場合は車の利用が大半を占め、居住地区にかかわらず車(自分運転、他人運転)での買物が8割前後を占めている。一方、「松園地域内」で買物する人でも約4割の人が車を利用しており、特に地域中心部から離れた地区の居住者では車の利用者がかかり多い。

以上のことは、「松園地域内」の多くの地区では、日常生活で最も必要な食料品の買物が、自宅周辺の近隣地区では十分に供給され無いために、車で「松園地域内」あるいは松園地域外へ買物に行かざるを得ないことを反映していると考えられる。このことは前述した買物環境評価の地区間の差違にも表れており、結果として買物環境評価が低い人(および地区)ほど車を利用して松園地域外で買物をしていることになる。

一方、松園地域中心部から離れた地区に居住し、かつ車を運転できない人にとっては、徒歩または自転車やバスを利用せざるを得ない。しかしながら、「松園地域内」での食料品の買物に自転車を利用する割合は、松園地域全体で4.3％(居住地区別では1.5～8.3％)、バスは0.7％(居住地区別では0～2.1％)でしかない。「Ⅳ. 高齢者による居住地区の生活環境評価」で述べたように、どの居住地区でも歩行環境の評価は低い。松園地域は全体的に地形が起伏に富み、坂や階段が多いため、高齢者が自転車で移動するには徒歩の場合以上に困難を伴うことが少なくない。また、バス路線網は松園地域内を比較的密には走っているものの、その多くが松園地域南端部のバスターミナルを発着点とする循環路線のため、自宅と松園地域内の外出先とをバスで往復するには、乗り換えを必要とする場合が多く、地域内交通は便利とは言えない。このように松園地域中心部から離れた居住地区では、地域内での食料品買物行動が抑制されていると推測される(後掲の表16参照)。

## 2. 衣料品買物の外出行動

### (1) 外出行動の特徴(表6 表7 表8)

- ・衣料品の買物のために月に1回以上外出する人の割合(外出者率)は65%。男性は55%, 女性は76%で, 女性の方が約20%も高い。
- ・外出者率は年齢によっても異なり, 男性の前期高齢者は59%で, 後期高齢者は44%, 女性の前期高齢者は81%で, 後期高齢者は64%。男女共に前期高齢者の方が約15%高い。
- ・外出者一人あたりの外出先数は1.6箇所。
- ・外出者一人あたりの外出度数は月平均2.4回。女性の2.6回に対し, 男性は2.1回と少ない。

### (2) 外出先の所在地

- ・衣料品の買物先の所在地は, 「松園周辺地域」(42%)と「市中心部」(41%)がほぼ二分。
- ・性別に見ると, 男性は「松園周辺地域」の方を, 女性は「市中心部」の方をより好む。
- ・年齢別では, 女性ではあまり違いは見られないが, 男性では前期高齢者の方がより遠方の地域まで買物に行っている。

### (3) 外出先の所在地と外出頻度

- ・衣料品買物の外出頻度は, どの外出先所在地でも月1回程度が8割前後を占めており, 差はあまりない。

### (4) 外出先の所在地と交通手段

- ・衣料品の買物先までの交通手段は, どの地域でも車での買物が過半数を占めているが, 外出先の所在地によって多少異なる。「松園地域内」では徒歩(16%)と自転車(19%)が比較的多い。「松園周辺地域」と「市中心部」へはバスも比較的多い(前者21%, 後者32%)。「その他の地域」へは, 圧倒的に車の利用が多い(自分運転の車68%, 他人運転の車28%)。

### (5) まとめ

衣料品の買物へは一人あたり平均して月2~3回程度行くが, 「松園地域内」には衣料品販売店がとても少ないことや店舗規模が小さく品揃えが不十分であるため, 松園地域以外で買物をする人が圧倒的に多い。その中でも, 特に「松園周辺地域」と「市中心部」が外出先として選択され, 「その他の地域」はあまり選択されていない。

「松園周辺地域」と「市中心部」のいずれへ行くかは, 基本的には性別によって異なり, どの年齢層でも, 男性は「松園周辺地域」の方を, 女性は「市中心部」の方を好んでいる。男性は, ほとんどの人が自分が運転する車で衣料品の買物に行くため, 駐車しにくい「市中心部」をあまり好まないであろう。また, 女性ほどファッションには関心をもたないため, あまり買回りをせず手近な所で買物をすませたいと思っているのかもしれない。それに対して, 女性は男性よりもファッションへの関心が高いため, 品揃えが豊富でいろいろと買回れる「市中心部」の方を好むと考えられる。また, 車を運転できる人でも男女共に「その他の地域」の店舗(例えば新しい郊外型S.C.)ではあまり買物をしていない。以前からのなじみの店舗があることや, 郊外型S.C.は高齢者向けの衣料品の品揃えが良くないと認知されているのかもしれない。

## 3. 生活用品買物の外出行動

### (1) 外出行動の特徴(表6 表7 表8)



- ・生活用品の買物のために月に1回以上外出する人の割合(外出者率)は65%。男性は68%、女性は62%。外出者率は年齢と共に低下し、特に80歳以上では男女共に50%を下回る。
- ・外出者一人あたりの外出先数は男女共に1.5箇所。
- ・外出者一人あたりの外出度数は月平均3.2回。女性の3.4回に対し、男性は3.0回。

(2) 外出先の所在地(表10-①)

- ・生活用品の買物先の所在地は、「松園周辺地域」が60%と多く、「松園地域内」、「市中心部」、「その他の地域」は共に13~14%。
- ・ただし、男性でも前期高齢者では「その他の地域」、後期高齢者では「松園地域内」が相対的に多い。
- ・女性では、自分が運転できるかどうかにかかわらず、自宅に車が有る女性では65%が「松園周辺地域」を選択しているが、自宅に車が無い女性は「松園周辺地域」は43%で、37%が「市中心部」を選択。また、後期高齢者も「市中心部」での買物が目立つ。

表10-① 性別・年齢別にみた生活用品買物の外出先所在地

外出先所在地 性別・年齢					上段	延人数(人)
					下段	構成比(%)
	松園 地域内	松園周辺 地域	市中心部	その他の 地域	合 計 (延人数)	回答者数 (実人数)
男65~69歳	7 9.6	50 68.5	1 1.4	15 20.5	73 100.0	53
男70~74歳	3 5.5	31 56.4	9 16.4	12 21.8	55 100.0	36
男75~79歳	9 24.3	16 43.2	8 21.6	4 10.8	37 100.0	22
男80歳以上	3 33.3	5 55.6	1 11.1	0 0.0	9 100.0	5
男性 計	22 12.6	102 58.6	19 10.9	31 17.8	174 100.0	116
女65~69歳	8 9.4	61 71.8	6 7.1	10 11.8	85 100.0	50
女70~74歳	6 18.8	15 46.9	10 31.3	1 3.1	32 100.0	24
女75~79歳	6 30.0	10 50.0	4 20.0	0 0.0	20 100.0	17
女80歳以上	1 9.1	4 36.4	6 54.5	0 0.0	11 100.0	8
女性 計	21 14.2	90 60.8	26 17.6	11 7.4	148 100.0	99
合 計	43 13.4	192 59.6	45 14.0	42 13.0	322 100.0	215

(3) 外出先の所在地と外出頻度(表10-②)

- ・生活用品買物の外出頻度は、外出先所在地によって異なり、「松園地域内」での買物は個人差が大きいものの月2~3回が最も多い。他の3地域ではほとんどが月1回程度。

(4) 外出先の所在地と交通手段(表10-③)

- ・生活用品の買物先までの交通手段は、外出先の所在地によって異なる。「松園地域内」へは徒歩が約半数。「松園周辺地域」へは車の利用が大半(自分運転の車64%、他人運転の車20%)。「市中心部」へは、車の利用が多いが(自分運転の車42%、他人運転の車18%)、バスの利用も多い(38%)。「その他の地域」へは、ほとんどが車を利用(自分運転の車80%、他人運転の車

18%)。

表10-② 生活用品買物の外出先所在地と外出頻度

外出頻度 外出先所在地	上段 延人数(人)				合 計 (延人数)
	月1回	月2~3回	週1回	週2回以上	
松園地域内	13 31.0	14 33.3	7 16.7	8 19.0	42 100.0
松園周辺地域	99 54.1	72 39.3	7 3.8	5 2.7	183 100.0
市中心部	33 80.5	8 19.5	0 0.0	0 0.0	41 100.0
その他の地域	35 87.5	4 10.0	0 0.0	1 2.5	40 100.0
合 計	180 58.8	98 32.0	14 4.6	14 4.6	306 100.0

表10-③ 生活用買物の外出先所在地と交通手段

交通手段 外出先所在地	上段 延人数(人)					合 計 (延人数)
	自分運転 車	他人運転 車	徒歩	自転車	バス	
松園地域内	11 28.2	3 7.7	18 46.2	5 12.8	2 5.1	39 100.0
松園周辺地域	120 63.8	38 20.2	8 4.3	3 1.6	19 10.1	188 100.0
市中心部	19 42.2	8 17.8	0 0.0	1 2.2	17 37.8	45 100.0
その他の地域	32 80.0	7 17.5	0 0.0	0 0.0	1 2.5	40 100.0
合 計	182 58.3	56 17.9	26 8.3	9 2.9	39 12.5	312 100.0

#### (5) まとめ

生活用品の買物行動は、外出頻度や外出先までの距離を見ると、食料品と衣料品の間隔的な性格を持っている。つまり、頻度は月1~数回程度で、外出先は「松園周辺地域」が特に多い。ただし、外出先所在地は性別や年齢によって異なり、男性や自宅に車が有る女性は特に「松園周辺地域」が多い。このことは、生活用品は他の買物と比べて、車でないと運べないようなかさばる物が多いことを反映していると考えられる。一方車を運転できない女性(特に後期高齢者)では、徒歩による「松園地域内」での買物やバスを利用した「市中心部」での買物が相対的に多い。

#### 4. 病院への外出行動(通院行動)

##### (1) 外出行動の特徴(表6 表7 表8)

- ・通院のために月に1回以上外出する人の割合(外出者率=通院者率)は78%。男女で差はほとんどない。
- ・外出者率を年齢別(男女込み)に見ると、65~69歳は75%、70~74歳は80%、75~79歳は85%と年齢と共に上昇するが、80歳以上では74%と低下。
- ・外出者一人あたりの外出先数(通院病院数)は1.6箇所、年齢と共に多少増加傾向。
- ・外出者一人あたりの外出度数は月平均2.7回。女性の2.5回に対し、男性は2.9回と少し多い。年齢別では、80歳を超えると急増し、男性は月平均5.3回、女性は3.8回。



## (2) 外出先の所在地

- ・通院先の病院の所在地は、「松園地域内」が49%、「松園周辺地域」が15%、「市中心部」が29%。高齢者の属性(性別, 年齢, 車運転能力等)による通院先の所在地の違いはほとんどない。

## (3) 外出先の所在地と通院頻度

- ・通院頻度は, 月1回が77%と最も多く, 月2~3回が17%。病院の所在地による違いはあまりないが, より遠い「市中心部」や「その他の地域」への通院頻度の方が, 近い地域よりも多少多い傾向にある。

## (4) 外出先の所在地と交通手段

- ・通院先までの交通手段は, 病院の所在地によって異なる。「松園地域内」の病院への通院は, 徒歩が57%と最も多く, 車の利用は少ない(自分運転の車28%, 他人運転の車9%)。他の3地域(「松園周辺地域」, 「市中心部」, 「その他の地域」)への交通手段は, 自分運転の車が48~54%, 他人運転の車が18~28%, バスが16~26%で, 全体的に車の利用が多く, 3地域間であまり差はない。

## (5) まとめ

通院行動は買物行動とは異なり, 高齢者の属性(性別, 年齢, 車運転能力等)による行動の相違がほとんど認められない。高齢者が病院を選択する際は, 例えば定期的な受診や軽度の体調不良の場合は, 歩いても行ける距離にあるかかりつけの医院, 重い病気や慢性的病気の場合は専門医がいるより遠くの病院というように, 高齢者が抱える病気の種類や症状に応じて, 適切な病院が選ばれると考えられる。このため, 買物行動の場合とは違って, 外出先までの距離や普段利用する交通手段の違いなどは, 外出行動の制約条件にはあまりならないのであろう。

## 5. 趣味活動の外出行動

### (1) 外出行動の特徴(表6 表7 表8)

- ・趣味活動のために月に1回以上外出する人の割合(外出者率)は59%。男性は55%, 女性は64%で, 女性の方が高い。年齢による差はあまりない。
- ・趣味活動者一人あたりの外出先数は1.6箇所。
- ・趣味活動者一人あたりの月平均外出度数は7.5回。女性の7.9回に対し, 男性は7.1回と少ない。ただし, 男性でも前期高齢者の6.2回に対して, 後期高齢者は9.3回と多い。

### (2) 外出先の所在地(表11-①)

- ・趣味活動先の所在地は, 「松園地域内」が37%、「松園周辺地域」が11%、「市中心部」が32%、「その他の地域」が21%。女性は相対的に「市中心部」が多く(37%), 「その他の地域」が少ない(14%)。逆に男性は「市中心部」が少なく(25%), 「その他の地域」が多い(30%)
- ・車の運転ができる人や自分専用の車が有る人は, 「市中心部」(26~28%)より, 「その他の地域」(28~30%)の方が多い。車の運転ができない人や世帯に車が無い人は, 「市中心部」(38~39%)の方が「その他の地域」(12%)より多い。

表11-① 性別・年齢別にみた趣味活動の外出先所在地

外出先所在地 性別・年齢					上段	延人数(人)
					下段	構成比(%)
	松園 地域内	松園周辺 地域	市中心部	その他の 地域	合 計 (延人数)	回答者数 (実人数)
男65～69歳	19 34.5	6 10.9	12 21.8	18 32.7	55 100.0	40
男70～74歳	10 23.3	3 7.0	15 34.9	15 34.9	43 100.0	25
男75～79歳	17 60.7	5 17.9	3 10.7	3 10.7	28 100.0	21
男80歳以上	2 16.7	1 8.3	4 33.3	5 41.7	12 100.0	8
男性 計	48 34.8	15 10.9	34 24.6	41 29.7	138 100.0	94
女65～69歳	33 39.8	10 12.0	30 36.1	10 12.0	83 100.0	46
女70～74歳	13 30.2	5 11.6	15 34.9	10 23.3	43 100.0	26
女75～79歳	11 45.8	2 8.3	9 37.5	2 8.3	24 100.0	20
女80歳以上	8 47.1	0 0.0	8 47.1	1 5.9	17 100.0	10
女性 計	65 38.9	17 10.2	62 37.1	23 13.8	167 100.0	102
合 計	113 37.0	32 10.5	96 31.5	64 21.0	305 100.0	196

## (3) 外出先の所在地と外出頻度(表11-②)

・趣味活動の外出頻度は個人差が大きく、月2～3回から週1回程度を中心にばらついている。外出先所在地による外出頻度の差はさほどないが、自宅に近い地域ほど多少多い傾向にある。

表11-② 趣味活動の外出先所在地と外出頻度

外出頻度 外出先所在地					上段	延人数(人)
					下段	構成比(%)
	月1回	月2～3回	週1回	週2回以上	合 計 (延人数)	
松園地域内	14 12.4	26 23.0	43 38.1	30 26.5	113 100.0	
松園周辺地域	6 18.8	11 34.4	7 21.9	8 25.0	32 100.0	
市中心部	14 14.9	32 34.0	31 33.0	17 18.1	94 100.0	
その他の地域	12 18.8	26 40.6	16 25.0	10 15.6	64 100.0	
合 計	46 15.2	95 31.4	97 32.0	65 21.5	303 100.0	

## (4) 外出先の所在地と交通手段(表11-③)

・趣味活動先までの交通手段は、活動先の所在地によって異なる。「松園地域内」の外出先へは、徒歩が64%と最も多く、次いで自分運転の車が21%。「松園周辺地域」へは、車の利用が多い(自分運転の車44%、他人運転の車25%)。「市中心部」へは、自分運転の車(41%)とバス(43%)が二分。「その他の地域」へは、車の利用が大半(自分運転の車73%、他人運転の車13%)。

表11-③ 趣味活動の外出先所在地と交通手段

交通手段 外出先所在地	自分運転 車	他人運転 車	徒歩	自転車	バス	タクシー	上段	延人数(人)
							下段	構成比(%)
松園地域内	24	6	72	8	3	0		113
	21.2	5.3	63.7	7.1	2.7	0.0		100.0
松園周辺地域	14	8	6	2	2	0		32
	43.8	25.0	18.8	6.3	6.3	0.0		100.0
市中心部	39	14	0	1	41	1		96
	40.6	14.6	0.0	1.0	42.7	1.0		100.0
その他の地域	46	8	0	1	8	0		63
	73.0	12.7	0.0	1.6	12.7	0.0		100.0
合 計	123	36	78	12	54	1		304
	40.5	11.8	25.7	3.9	17.8	0.3		100.0

(5) まとめ

趣味活動では、外出者率、外出先数、外出度数共に女性の方が男性を上回っており、女性の方が趣味活動のための外出が活発に行われている。また、年齢別にみても、高齢になるにつれて外出が不活発になるということもない。つまり、交通手段として車を利用できない人が多い後期高齢者でも、そのことが必ずしも外出行動を抑制していないことが分かる。趣味活動のための外出に伴う労苦は、後期高齢者でもあまり苦にならないものと考えられる。

前述したように、高齢者には日常生活の中で個人的趣味や教室・サークル・スポーツ活動を重視している人が多い。前者は48%、後者は30%の人が重視している。また、少なくとも両者のいずれかを重視している人は63%と過半数を超え、他活動に比べて重視する人がかなり多い。また、その外出度数も食料品買物、散歩について多い。このように趣味活動を行うことは、高齢者にとっては楽しいことであり、特に生き甲斐との関連が強いため、それに伴う労苦はあまり問題とならないと考えられる。

6. 友人・知人宅への訪問外出行動

(1) 外出行動の特徴(表6 表7 表8)

- ・友人・知人宅への訪問のために月に1回以上外出する人の割合(外出者率)は53%。男性は44%、女性は62%で、女性の方がかなり高い。ただし、外出者率は加齢と共に低下し、後期高齢者では男女とも50%を下回る。
- ・訪問者一人あたりの外出先数は1.6箇所。
- ・訪問者一人あたりの外出度は月平均3.9回。女性の4.4回に対し、男性は3.1回と少ない。年齢別では、男性は75歳以上、女性では70歳以上で、外出度数が急激に低下し、男女平均の外出度は、前期高齢者の4.0回に対して、後期高齢者は3.1回と少ない。

(2) 外出先の所在地

- ・訪問先の所在地は、「松園地域内」が39%、「松園周辺地域」が12%、「市中心部」が27%、「その他の地域」が23%。女性は「松園地域内」が最も多いが(46%)、男性は「その他の地域」が最も多い(31%)。
- ・車の運転ができる人の訪問先は、「松園地域内」が相対的に少なく(33%)、「その他の地域」(28%)が比較的多いが、運転ができない人では「松園地域内」が46%と多い。ただし、同じ性の中では、車の運転ができる人とできない人の訪問先にはほとんど差はない。

## (3) 外出先の所在地と外出頻度

全体では月1回程度が55%, 月2~3回が25%, 合わせて80%を占めるが, 訪問先が近い場合(「松園地域内」と「松園周辺地域」)は, 週1回以上が3割近くを占める。

## (4) 外出先の所在地と交通手段

・訪問先までの交通手段は, 活動先の所在地によって異なり, 「松園地域内」での訪問は, 徒歩が70%と最も多い。他の3地域(「松園周辺地域」, 「市中心部」, 「その他の地域」)への交通手段は, 自分運転の車が48~61%, 他人運転の車が18~20%と車の利用が多く, 3地域間であまり差はない。

## (5) まとめ

友人・知人宅への訪問のための外出は, 趣味活動と同様に女性の方が外出者率は高く, かつ外出先数, 外出度数共に多く, 男性よりも外出が活発に行われている。よく言われるように, 男性は会社等を退職すると人とのつきあいが急激に減るのに対し, 女性は高齢になっても従来からの地縁関係を中心としたつきあいが継続していることの現れであろう。またその結果, 訪問先の所在地も異なり, 女性は「松園地域内」での訪問が最も多いが, 男性は「その他の地域」が最も多く, 女性は地縁関係, 男性では過去の社縁関係でのつきあいが多いことを示唆している。また, 前述したように自宅外で行う趣味活動の所在地も男女で異なっているため, 趣味活動を通じた友人・知人の居住地の広がり方が男女で違うことも関係していると考えられる。

一方年齢別にみると, 趣味活動の場合とは異なり, 訪問活動では高齢になるにつれて, 外出者率や外出度数は減少する。一般的には, 高齢になるほど相手の友人・知人も高齢となり, 存命者が次第に少なくなることを反映していると考えられる。

## 7. 散歩の外出行動

## (1) 外出行動の特徴(表6 表8)

・月に1回以上散歩する人の割合(外出者率)は46%。男性は54%, 女性は38%で, 男性の方がかなり高い。ただし, 外出者率は加齢と共に低下し, 男性は80歳以上, 女性では70歳以上で急激に低下。

・散歩者一人あたりの月平均外出度は11.0回。女性の9.9回に対し, 男性は11.7回と少し多い。年齢別では, 男女共に70歳代までは加齢と共に減少するが, 80歳代以上の外出度は, 70歳代よりも多くなっている。

## (2) 外出頻度(表12-①②③)

・月に1回以上散歩する人の中で, 週に1回以上散歩する人の割合は78%。週4回以上散歩する人は37%にも及び, その割合は女性よりも男性の方が, 後期高齢者よりも前期高齢者の方が高い。

・全サンプルでは, 日常生活で散歩を重視する人(サンプルの19%, 62人)の散歩回数は特に多く, 45%の人が週4回以上, 27%の人が週2~3回散歩。散歩を重視していない人(サンプルの81%)の63%が, 散歩外出行動について無回答(恐らく多くの方は散歩をしていない)。

・地区別では, 南部地区(松園1丁目)が無回答者が最も多く, 週2回以上外出する人も最も少なく, 逆に北部地区(西松園4丁目)では無回答者が最も少なく, 週2回以上外出する人が最も多

い。

表12-① 性別・年齢別にみた散歩活動の外出頻度

外出頻度 性別・年齢	月1回	月2～3回	週1回	週2～3回	週4回以上	上段 実人数(人) 下段 構成比(%)	
						合計 (実人数)	
男65～69歳	4 9.5	5 11.9	3 7.1	10 23.8	20 47.6	42	100.0
男70～74歳	2 8.3	2 8.3	3 12.5	7 29.2	10 41.7	24	100.0
男75～79歳	1 4.5	5 22.7	4 18.2	7 31.8	5 22.7	22	100.0
男80歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0	5	100.0
男性 計	7 7.5	12 12.9	10 10.8	27 29.0	37 39.8	93	100.0
女65～69歳	1 3.0	6 18.2	7 21.2	5 15.2	14 42.4	33	100.0
女70～74歳	0 0.0	2 14.3	4 28.6	5 35.7	3 21.4	14	100.0
女75～79歳	3 33.3	1 11.1	2 22.2	2 22.2	1 11.1	9	100.0
女80歳以上	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	4	100.0
女性 計	4 6.7	11 18.3	13 21.7	13 21.7	19 31.7	60	100.0
合計	11 7.2	23 15.0	23 15.0	40 26.1	56 36.6	153	100.0

表12-② 日常生活での散歩重視(生活スタイル)と散歩活動の外出頻度

外出頻度 散歩重視	月1回	月2～3回	週1回	週2～3回	週4回以上	上段 実人数(人) 下段 構成比(%)	
						無回答	合計 (実人数)
非重視	10 3.7	18 6.7	20 7.4	23 8.5	28 10.4	171	270
重視	1 1.6	5 8.1	3 4.8	17 27.4	28 45.2	8	62
合計	11 3.3	23 6.9	23 6.9	40 12.0	56 16.9	179	332

表12-③ 居住地区別にみた散歩活動の外出頻度

外出頻度 居住地区	月1回	月2～3回	週1回	週2～3回	週4回以上	上段 実人数(人) 下段 構成比(%)	
						無回答	合計 (実人数)
南部地区	1 2.6	2 5.1	3 7.7	4 10.3	5 12.8	24	39
中央地区	4 5.4	4 5.4	5 6.8	8 10.8	10 13.5	43	74
西部地区	4 4.5	7 7.9	6 6.7	10 11.2	17 19.1	45	89
北部地区	2 3.8	6 11.3	3 5.7	9 17.0	9 17.0	24	53
東部地区	0 0.0	4 5.2	6 7.8	9 11.7	15 19.5	43	77
松園地域	11 3.3	23 6.9	23 6.9	40 12.0	56 16.9	179	332

## (3) まとめ

高齢者の半数近くが、月に1回以上散歩を行っている。また、週1回以上散歩をしている人は全サンプルの36% (活動者の78%) を占め、週4回以上散歩している人は17% (活動者の37%) にものぼる。このように散歩活動は、全くしない人から、毎日のように行う人まで個人差がかなり大きいのが特徴である。

また、散歩活動では男性の方が女性よりも外出者率や外出度数で上回っている。男性の方が平均年齢が若いこともあるが、同じ年齢層で比べても男性の方が外出者率が高く、外出度数も多い。普段の生活の中では、男性は女性に比べて家事や買物などで体を動かす機会が少ないことや車での移動が多いため、歩く機会が少ないなどの理由で運動不足になりやすい。また、男性の方が平均寿命が短いので、男性の方が自分の健康により気を遣っていることの現れなのかもしれない。

なお、地区別にみると、前述したように歩行環境と歩道環境の評価が最も低い南部地区で散歩活動があまり活発でなく、両環境で最も評価が高い北部地区で散歩活動が最も活発に行われていたことから、両環境評価と散歩活動との関連が予想されたが、個人レベルでは両環境評価と散歩活動の外出者率や外出頻度などとの関連は認められなかった。

## 8. 高齢外出者の外出行動のまとめ

これまで外出行動別に高齢者の外出者率、高齢外出者の一人あたり外出先数、一月平均の外出度数、外出先の所在地、外出頻度、外出先までの主な交通手段についてみてきた。そこで、最後にこれらの観点から各外出行動を比較することで、高齢者の外出行動の特徴についてまとめてみる。

## (1) 外出者率と外出度数(外出者の外出先数および外出頻度を含む)

外出者率と外出者の外出度は、外出頻度と密接に関連している。ある活動目的のために外出を月1回以上行う人の割合が外出者率である。また、外出する人の外出頻度を前述したように重みづけしたもの(複数の外出先がある場合はそれらを合計したもの)が外出者の外出度数である。

そこで、表6、表7、表8をもとに、外出行動別の外出者率、外出者一人あたりの外出先数と一月平均の外出度数をまとめたのが、表13である。外出者一人あたりの外出先数は食料品買物が2.1箇所と多いが、他の外出行動はいずれも1.5~1.6箇所で大差ない。したがって、7つの外出行動は、外出者率と外出者一人あたりの一月平均外出度数によって、次の3つのグループに分けることができる。

## ①外出者率がかなり高く、外出度数も多い外出行動-食料品買物

表13 外出行動別の外出行動の特徴

外出行動指標	食料品買物	衣料品買物	生活用品買物	通院	趣味活動	友人・知人宅訪問	散歩
外出者率(%)	91.8	65.0	65.0	78.2	59.2	52.9	46.2
外出者一人あたり外出先数(箇所)	2.1	1.6	1.5	1.5	1.6	1.6	—
外出者一人あたり一月平均外出度数(回)	12.2	2.4	3.2	2.7	7.5	3.9	11.0



②外出者率は比較的高いが、外出度数は少ない外出行動-衣料品買物、生活用品買物、通院、友人・知人宅訪問

③外出者率は中程度だが、外出度数が多い外出行動-趣味活動、散歩

ただし、前述したように、外出者率も外出者の外出度数も性別や年齢などの個人の属性によってかなり差がある。また、生活環境評価や生活スタイルの影響も受けている可能性が高い。そこで、外出行動別に外出頻度とこれらの属性、生活環境評価、生活スタイルとの関連を分析し、外出行動の促進要因や抑制要因を明らかにする必要があるが、これについては次の「Ⅶ. 全外出度数からみた高齢者の目的別外出行動」で述べることにする。

(2) 外出先所在地

表9-①、表10-①、表11-①などをもとに、散歩を除く6つの外出行動の外出先所在地をまとめたのが、表14である。各外出行動の主な外出先所在地を、松園地域との距離関係からみると、6つの外出行動は次の3つのグループに分けることができる。

表14 外出行動別にみた外出先所在地

外出行動 外出先所在地	単位(%)					
	食料品 買物	衣料品 買物	生活用品 買物	通院	趣味 活動	友人・知 人宅訪問
松園地域内	44.5	9.7	13.4	49.4	37.0	38.5
松園周辺地域	42.4	41.9	59.6	15.0	10.5	11.9
市中心部	7.0	41.0	14.0	29.4	31.5	26.6
その他の地域	6.1	7.4	13.0	6.2	21.0	23.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

①外出先が近距離に多い外出行動-食料品買物

実際には中距離にあたる「松園周辺地域」への外出も多いが、他外出行動と比べれば、近距離の「松園地域内」が多く、遠距離にあたる「市中心部」や「その他の地域」がかなり少ない。

食料品買物場合、外出先が近距離の「松園地域内」か中距離の「松園周辺地域」かは、高齢者が車の運転が可能かどうかと関連しており、運転可能な人は松園地域外へ外出しやすい。

②外出先が近距離に少ない外出行動-衣料品買物、生活用品買物

近距離への外出はかなり少なく、外出先は圧倒的に中距離または遠距離にある。生活用品も衣料品も「松園地域内」には店舗があまり無いので、それらの買物のためには松園地域外へ外出せざるを得ない。その際、一般的に言って男性かつまたは世帯に車が有る人は松園地域周辺部へ、女性かつまたは世帯に車が無い人は「市中心部」へ外出する傾向が強い。逆に言えば、男性や世帯に車がある人にとっては、「市中心部」は買物場所としてはあまり魅力がないと言えよう。

③外出先が近距離と遠距離に二分される外出行動-通院、趣味活動、友人・知人宅訪問

外出先が近距離と遠距離に二分され、中距離が少ない。基本的には各外出行動でもその活動内容等によって所在地が分かれていると考えられる。例えば、通院の場合は、高齢者の属性と外出先とはほとんど関係なく、病気の種類や病状に応じて適切な病院が選択されている。趣味活動の場合は、趣味の種類と活動頻度によって外出先が近距離か遠距離かが規定される。ただし、遠距離移動の場合でも、女性や車が運転できない人は「市中心部」、男性や車の運転可能者

は「その他の地域」への外出が多い。友人・知人宅訪問の場合は、知り合うきっかけが主に地縁関係か否かによって外出先は左右される。そのため、友人・知人宅訪問の外出先は、女性は近距離の「松園地域内」、男性は遠距離の「その他の地域」が多くなると考えられる。

当然ながら高齢者がどこの地域へ外出するかは、直接の外出先(店舗, 病院, 施設, 友人宅等)の立地(分布)状況に左右される。その点から言うと、「松園地域内」にはあまり店舗が無い生活用品や衣料品の買物は場合はもちろん、他の買物以外の外出行動でもその外出先の過半が松園地域外にあるため、高齢者の外出行動範囲はかなり広がる。その中で、外出先の選択に影響を与えている属性は、性別と車運転能力や世帯での車所有状況であり、他の属性はほとんど関係していない。

### (3) 利用交通手段

表9-③, 表10-③, 表11-③などをもとに、散歩を除く6つの外出行動の主な利用交通手段をまとめたのが、表15である。各外出行動の主な利用交通手段から、6つの外出行動は「(2)の外出先所在地」と同様の3つのグループに分けることができる。

表15 外出行動別にみた利用交通手段

外出行動 交通手段	単位(%)					
	食料品 買物	衣料品 買物	生活用品 買物	通院	趣味 活動	友人・知 人宅訪問
自分運転車	46.8	49.7	58.3	40.2	40.5	39.8
他人運転車	15.6	21.0	17.9	14.6	11.8	14.1
徒歩	27.4	3.0	8.3	28.8	25.7	28.2
自転車	3.1	2.4	2.9	1.8	3.9	3.2
バス	6.8	23.1	12.5	13.4	17.8	14.1
タクシー	0.3	0.9	0.0	1.3	0.3	0.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

#### ①車と徒歩が多い外出行動-食料品買物

外出先が近距離または中距離のため、徒歩と車が多くなるが、近距離の「松園地域内」でも車の利用は比較的多い。

#### ②車とバスが多い外出行動-衣料品買物, 生活用品買物

外出先は中距離または遠距離が多いため、車とバスの利用が多い。

#### ③車と徒歩とバスが多い外出行動-通院, 趣味活動, 友人・知人宅訪問

外出先が近距離と遠距離に二分されるため、徒歩と車やバスの利用が多い。

このように利用交通手段は外出先の所在地と密接な関係にある。このため、中距離以上の外出先に行くには車またはバスを利用せざるを得ない。その際、「その他の地域」への外出はバスの便が悪いため、圧倒的に車利用者が多くなるのに対し、「市中心部」への外出はバスの便が良いため、相対的にバス利用者が多くなる。また、「松園周辺地域」へのバスの便もよいのだが、

「市中心部」ほど多くは利用されていない。「松園周辺地域」は「市中心部」よりも駐車場が整備され、車で行くには便利だからであろう。

## Ⅶ. 全外出度数からみた高齢者の目的別外出行動

### 1. 高齢者全体の外出度数(全外出度数)の算出

「Ⅵ. 高齢外出者の目的別外出行動」では、高齢の外出者を取り上げ、外出目的別にその外出行動の特徴をみてきた。ここでは、外出者だけでなく非外出者も含めた高齢者全体について、外出目的別に外出度数を算出し、外出行動の規定要因(促進要因、抑制要因)を、高齢者の属性、生活環境評価、生活スタイルの各側面から考察していく。なお、ここで扱う高齢者全体の外出度数(以下では、全外出度数と呼ぶことにする)は、高齢者外出者率に外出者の外出度数を乗じたものに等しい<sup>17)</sup>。

このように、ここで扱う高齢者全体の外出度数(全外出度数)は、外出者率と外出者の外出度数を総合化した指標であり、外出者率が高くかつ外出者の外出度数が多いほど全外出度数は多くなり、逆に外出者率が低くかつ外出者の外出度数が少ないほど全外出度数も少なくなる。

表16, 表17, 表18には、項目(規定要因)毎の外出行動別全外出度数を示した。表では各項目のカテゴリー毎の平均外出度数が示されているが、カテゴリーの平均外出度数間に統計学的に有意な差ある項目については、その項目を太い黒枠で囲んだ。なお、統計学的に有意な差があると判断されるには、カテゴリーの平均値間に大きな差があるだけでなく、表には示していないがカテゴリー内のばらつき(標準偏差)が小さいことも必要である。さらに、同時に7つの外出行動の外出度数を単純に合計した度数(以下では、総外出度数と呼ぶ)も算出した。ただし、散歩は後述するように全外出度数が多い上に個人差も大きいため、散歩を除く6つの外出行動を合計した外出度数も算出して表に示してある。なお、表17では、各環境のカテゴリー評価は、評価の低い方から高い方へとという順に並べてある。

### 2. 目的別外出行動の全外出度数

#### (1) 食料品買物

##### ①属性との関連(表16)

地区、性別、年齢、一人での外出可能性の4項目が、食料品買物の外出行動に関係しているが、それらは各々独立的に外出行動に影響を及ぼしている。食料品買物は外出者率が最も高く、外出者の外出度数も最も多いため、全外出度は11回を越え、最も頻繁に外出する行動である。

このため、後期高齢者よりも前期高齢者の方が全外出度数が多く、また一人で外出可能な人の方がそうでない人よりもかなり多いのは当然のことと言える。また、食料品という性格上、主婦である女性の方が男性よりも全外出度数が多い。地区別では、一般的には松園地域中心部に近い地区で多く、離れた地区で少ない。食料品買物は徒歩での外出が相対的に多いため、店舗等が集中する松園地域中心部との距離が影響していると考えられる。

##### ②生活環境評価との関連(表17)

---

17) 「全外出度数 = 外出者率 × 外出者の外出度数 + 非外出者率 × 非外出者の外出度数」であるが、非外出者は外出頻度が「無し」であるため外出度は0となり、結果として「全外出度数 = 外出者率 × 外出者の外出度数」となる。

表16 外出行動別属性別高齢者の一月あたり外出度数（全外出度数）

属性	カテゴリー	食料品 買物	衣料品 買物	生活用 品買物	通院	趣味 活動	友人・ 知人宅 訪問	散歩	総外出 度数(7 外出計)	散歩除 く6外出 計	実人 数
地区	南部地区	9.6	1.1	1.9	3.2	4.4	2.6	4.1	26.7	22.7	39
	中央地区	12.5	1.3	1.8	2.2	4.6	1.8	4.2	28.6	24.3	74
	西部地区	12.8	1.9	2.2	1.7	4.0	2.3	5.5	30.3	27.9	89
	北部地区	10.2	1.4	2.3	1.6	5.0	1.8	5.6	27.9	22.2	53
	東部地区	9.1	1.2	1.7	1.9	4.5	1.9	5.5	25.9	20.4	77
性別	男性	10.0	1.1	2.0	2.2	3.9	1.4	6.4	26.9	20.5	171
	女性	12.3	1.8	2.0	1.9	5.0	2.7	3.7	29.3	25.6	160
年齢	65～69歳	11.6	1.5	2.3	1.7	4.5	2.4	6.4	30.4	24.0	142
	70～74歳	12.4	1.4	2.1	2.2	3.8	2.3	4.8	28.9	24.1	88
	75～79歳	9.8	1.3	1.8	1.7	4.9	1.7	3.8	25.1	21.3	67
	80歳以上	8.2	1.4	0.8	3.3	5.1	0.7	3.0	22.5	19.5	35
一人での 外出可能性	可	11.5	1.5	2.0	1.9	4.6	2.0	5.2	28.8	23.5	307
	不可	5.4	0.8	1.5	4.1	2.6	1.8	2.9	19.1	16.2	24
車運転能力	可	11.1	1.4	2.2	2.0	4.1	2.0	6.0	28.6	22.6	189
	不可	11.1	1.5	1.7	2.1	5.0	2.1	3.8	27.3	23.5	142
世帯での 車所有	専用車	11.0	1.2	2.2	1.8	4.1	2.0	6.0	28.4	22.3	167
	非専用車	11.0	1.5	1.6	2.3	4.2	2.0	4.2	26.7	22.5	123
	車なし	11.9	2.0	2.2	2.2	6.7	2.4	3.8	31.2	27.4	40
配偶者	無し	10.5	1.7	1.9	2.1	5.8	2.6	3.3	27.9	24.6	63
	有り	11.2	1.4	2.0	2.0	4.1	1.9	5.5	28.1	22.7	269
子供数	0人	11.5	1.6	2.0	2.2	4.8	2.1	5.9	30.1	24.2	204
	1人	11.9	1.4	2.3	1.5	4.4	2.6	3.9	28.0	24.1	73
	2人以上	8.5	0.9	1.4	2.2	3.2	1.0	3.5	20.7	17.2	55
家族数	1人	10.9	2.0	2.2	1.8	6.9	3.2	4.0	30.9	26.9	23
	2人	11.5	1.5	1.9	2.2	4.7	2.1	5.9	29.9	24.0	191
	3人以上	10.4	1.2	2.0	1.8	3.6	1.7	3.9	24.6	20.7	118
住宅	一戸建て	11.2	1.5	2.0	2.1	4.6	2.0	5.1	28.5	23.3	316
	県営住宅	8.0	0.5	0.7	0.8	2.0	3.0	5.0	20.0	15.0	12
	借家	10.6	1.4	4.1	1.0	1.3	3.5	0.6	22.5	21.9	4
就業状況	無職	11.5	1.5	2.1	2.1	4.6	2.1	5.6	29.5	23.9	270
	会社員・ 公務員	8.3	0.6	1.1	1.5	4.1	1.9	3.6	21.0	17.4	40
	自営業	9.9	1.3	3.6	1.9	2.3	1.4	0.1	20.5	20.4	8
	その他	6.2	1.3	0.3	0.0	1.3	0.7	0.0	9.8	9.8	3
合計		11.1	1.4	2.0	2.0	4.5	2.1	5.1	28.1	23.0	330～ 332

□の項目は、カテゴリー間の値に5%水準で有意な差有り

表に示したように、生活環境評価と食料品買物の全外出度数との間には、特に関連は認められなかった。

### ③生活スタイルとの関連(表18)

食料品買物は全外出度数が最も多いため、「通院」を重視する人の全外出度数が有意に少ないのは、身体的理由から当然のことと言えよう。また、「ボランティア活動」を重視する人の全外出度数がかなり多いのは、重視者には圧倒的に前期高齢者が多いことが影響しているが、それ

表17 外出行動別生活環境別高齢者の一月あたり外出度数（全外出度数）

環境	カテゴリー	食料品 買物	衣料品 買物	生活用 品買物	通院	趣味 活動	友人・ 知人宅 訪問	散歩	総外出 度数(7 外出計)	散歩除 く6外出 計	実人数
歩行環境	かなり当て はまる	11.8	1.3	2.4	1.9	4.8	2.5	5.7	30.5	24.8	107
	多少当て はまる	9.9	1.3	1.7	2.2	3.8	1.9	5.1	25.9	20.8	128
	あまり当て はまらない	10.8	1.6	1.9	1.7	4.8	1.7	3.7	26.3	22.6	58
	全く当て はまらない	12.6	2.3	1.6	2.1	6.9	2.0	7.1	34.4	27.4	27
歩道環境	全く当て はまらない	14.8	2.1	2.1	2.1	4.8	3.9	2.5	32.2	29.8	4
	あまり当て はまらない	10.6	1.3	1.6	2.7	3.6	1.3	4.6	25.7	21.1	16
	多少当て はまる	10.5	1.1	1.6	2.4	3.4	2.4	4.4	25.8	21.5	74
	かなり当て はまる	11.0	1.5	2.1	1.8	5.0	2.0	5.6	29.1	23.5	224
バス環境	全く当て はまらない	12.0	1.5	1.8	2.3	3.7	2.9	2.5	26.6	24.1	27
	あまり当て はまらない	11.3	1.9	1.9	2.2	5.5	2.6	4.9	30.3	25.4	70
	多少当て はまる	11.1	1.4	1.9	2.4	4.3	1.8	6.0	28.8	22.8	118
	かなり当て はまる	10.1	1.3	2.2	1.4	4.3	1.8	5.6	26.6	21.0	99
買物環境	全く当て はまらない	9.4	1.6	1.3	2.4	6.7	7.4	4.4	33.2	28.8	9
	あまり当て はまらない	10.3	1.1	1.8	1.8	4.2	1.8	4.8	25.9	21.0	61
	多少当て はまる	9.9	1.6	1.8	2.1	4.4	1.7	5.4	27.1	21.7	133
	かなり当て はまる	12.6	1.4	2.3	2.0	4.9	2.3	5.4	30.9	25.5	113
施設環境	全く当て はまらない	10.7	1.8	2.6	2.3	3.7	3.3	5.2	29.6	24.3	19
	あまり当て はまらない	10.7	1.2	2.0	2.5	4.7	1.7	4.9	27.7	22.9	95
	多少当て はまる	11.0	1.7	1.7	1.9	4.1	2.0	5.3	27.8	22.5	133
	かなり当て はまる	11.8	1.3	2.3	1.6	6.1	2.5	6.5	32.1	25.5	61
合 計		11.0	1.5	2.0	2.0	4.6	2.1	5.3	28.2	23.0	308～ 320

 の項目は、カテゴリー間の値に5%水準で有意な差有り

だけでは説明ができず、詳細については不明である。

## (2) 衣料品買物

### ①属性との関連(表16)

衣料品買物は外出者率があまり高くなく、外出者の外出度数も少ないため、全外出度は1.4回と、7つの外出行動中最も少ない。

そのため、全外出度数と関連する属性も性別と就業状況の2つのみであった。男性よりも女性の方が全外出度数が多いのは、女性の方がファッションに興味があることや他の家族構成員の衣料等の買物も担当しているためであろう。なお、就業状況による全外出度数の違いは、就業者の多くが男性で、かつ無職者には女性が多いことによるもので、衣料品買物と直接的な関係があるわけではない。

### ②生活環境評価との関連(表17)

生活環境評価と衣料品買物の全外出度数との間には、特に関連は認められなかった。

表18 外出行動別生活スタイル別高齢者の一月あたり外出度数（全外出度数）

生活スタイル	カテゴリー	食料品 買物	衣料品 買物	生活用 品買物	通院	趣味 活動	友人・ 知人宅 訪問	散歩	総外出 度数(7 外出計)	散歩除 く6外出 計	実人数
個人的趣味	非重視	11.1	1.3	1.6	2.1	3.7	1.9	4.2	26.0	21.8	173
	重視	11.1	1.6	2.3	2.0	5.2	2.2	6.0	30.4	24.4	159
家事・育児	非重視	11.0	1.5	2.0	2.1	4.6	2.1	5.3	28.6	23.2	289
	重視	11.8	1.1	1.7	1.8	3.9	1.4	3.3	24.9	21.6	43
買物	非重視	10.5	1.5	2.1	2.3	4.7	2.1	5.3	28.5	23.2	219
	重視	12.2	1.3	1.7	1.6	4.0	1.9	4.5	27.3	22.8	113
通院	非重視	11.8	1.5	2.1	1.6	4.9	2.3	5.4	29.6	24.2	235
	重視	9.5	1.2	1.6	3.0	3.4	1.4	4.3	24.4	20.1	97
家でゆっくり 過ごす	非重視	11.3	1.6	2.1	1.9	5.0	2.2	5.5	29.6	24.0	263
	重視	10.4	0.9	1.6	2.4	2.3	1.5	3.2	22.3	19.1	69
家族と一緒に 過ごす	非重視	11.1	1.4	1.7	2.0	4.8	2.2	5.0	28.3	23.3	248
	重視	11.0	1.4	2.7	2.2	3.4	1.5	5.4	27.6	22.2	84
散歩	非重視	10.9	1.5	1.8	1.9	4.7	2.1	3.4	26.4	23.0	270
	重視	11.7	1.1	2.5	2.5	3.6	2.0	12.2	35.5	23.3	62
仕事	非重視	11.3	1.5	2.1	2.1	4.6	2.2	5.4	29.2	23.8	294
	重視	9.3	0.6	1.0	1.4	3.8	1.2	2.3	19.7	17.3	38
友人・近所と の付き合い	非重視	10.8	1.3	1.8	2.3	4.4	1.7	4.9	27.1	22.1	224
	重視	11.7	1.7	2.3	1.6	4.6	2.9	5.4	30.1	24.7	108
教室・サークル・ スポーツ	非重視	10.7	1.2	1.9	2.2	2.8	1.8	5.0	25.6	20.6	233
	重視	12.0	1.9	2.1	1.6	8.4	2.7	5.3	34.0	28.7	99
ボランティア 活動	非重視	10.7	1.4	1.9	2.1	4.3	2.0	4.9	27.4	22.5	294
	重視	14.0	1.3	2.2	1.4	5.9	2.1	6.4	33.4	27.0	38
合計		11.1	1.4	2.0	2.0	4.5	2.1	5.1	28.1	23.0	332

 の項目は、カテゴリー間の値に5%水準で有意な差有り

 の項目は、上記に加え、その活動を重視する方が全外出度数が少ない

### ③生活スタイルとの関連(表18)

衣料品買物の全外出度数は、「教室・サークル・スポーツ」を重視する人で多い。そのような活動を行うのに必要な衣料品やその外出のための衣料品を買物する機会が多くなるからであろう。

一方「家でゆっくり過ごす」や「仕事」を重視する人の全外出度数が少ない。いずれの生活スタイルも、後述するように7つの外出行動の合計である総外出度数がかなり少ない。「家でゆっくり過ごす」を重視する人は、そもそも外出機会が少ないので、そのための衣料品をあまり必要としないのであろう。「仕事」を重視する人はここで取り上げた7つの外出行動の総外出度数は少ないものの、仕事関係の外出機会が多いと考えられる。そのため衣料品の買物は必要ではあるが、時間的余裕があまり無いためにまとめ買いをしたり、家族に買物を頼むことが多くなるためと考えられる。

### (3) 生活用品買物

#### ①属性との関連(表16)

生活用品買物も衣料品買物と同様に外出者率があまり高くなく、外出者の外出度数も少ない



ため、全外出度数も2.0回と少ない。また、全外出度数と関連する属性は特になく、属性とはほとんど関係していないことが分かる。

②生活環境評価との関連(表17)

生活環境評価と生活用品買物の全外出度数との間にも、特に関連は認められなかった。

③生活スタイルとの関連(表18)

「個人的趣味」や「家族と一緒に過ごす」を重視する人の全外出度数が多い。個人的趣味や家族と一緒にを行う活動の内容もよるが、ガーデニング、DIY、レジャーなど、個人的趣味や家族と一緒にを行う活動に関わる用品を購入するために外出機会が多くなるのであろう。

(4) 通院

①属性との関連(表16)

通院も外出者率があまり高くなく、外出者の外出度数も少ないため、全外出度数も2.0回と少ない。

属性との関連をみると、一人での外出が可能でない人や後期高齢者の全外出度数が多くなっている。つまり、他の外出行動の場合は身体的機能の低下が外出行動を抑制しているが、通院外出行動の場合は逆に身体的機能の低下に伴って病院等への外出が必要となり、外出機会が増えてくることがわかる。

②生活環境評価との関連(表17)

バス環境をあまり良く評価していない人は、良く評価している人に比べて通院の全外出度数が多い。しかし、バス環境が悪いので、通院のための外出が増えるとは考えられず、逆に通院のためにバスを利用する機会が増えたために、その不便さを実感するようになったと考えられる。

③生活スタイルとの関連(表18)

当然のことであるが、「通院」を重視している人の通院の全外出度数は多い。逆に「買物」や、「友人・近所との付き合い」を重視している人の全外出度数は少ない。これは「買物」や「友人・近所との付き合い」を頻繁にしているから、心身が健康で通院する必要があまり無いというよりは、身体的理由等で通院するようになった結果、頻繁には「買物」や「友人・近所との付き合い」に出かけられなくなった(結果的に「買物」や「友人・近所との付き合い」を重視しない)と解するのが自然であらう。

(5) 趣味活動

①属性との関連(表16)

趣味活動は外出者率があまり高くないが、外出者の外出度数が多いため、全外出度数は4.5回と比較的多い。したがって、趣味活動の全外出度数は個人差が比較的大きい。

それに影響を与えている属性は、配偶者の有無、家族数、世帯での車所有状況である。家族数が一人の単身者や配偶者がいない人(子供等はいる人も含む)の全外出度数は多く、家族内に同世代の高齢者がいない人は共通の趣味をもつ人を求めて積極的に外出をしていると考えられる。なお、世帯に車が無い人の全外出度数が有意に多いが、車が無いことが外出を促進する要因とは考えにくく、車が無い世帯に単身者や配偶者がいない人(特に女性)が多いことから生じる見せかけの関係と思われる。

②生活環境評価との関連(表17)

生活環境評価と趣味活動の全外出度数との間には、特に関連は認められなかった。

### ③生活スタイルとの関連(表18)

「個人的趣味」や「教室・サークル・スポーツ」を重視する人は、趣味活動の全外出度数が多くなるのは明かであろう。その一方で、「通院」や「家でゆっくり過ごす」ことを重視する人は趣味活動のためにあまり外出しないことも当然のことと考えられる。

### (6) 友人・知人宅訪問

#### ①属性との関連(表16)

友人・知人宅訪問は外出者率が52.9%と二番目に低く、外出者の外出度数も多くないため、全外出度数も2.1回と少ない。

その中で、女性および前期高齢者の全外出度数は男性や後期高齢者に比べて有意に多く、これまで築いてきた人間関係(地縁関係や社縁関係など)をもとにして、後者よりも活発に外出している。

#### ②生活環境評価との関連(表17)

買物環境がかなり悪いと答えた高齢者の全外出度数がとても多い結果となった。しかしながら、そう答えたサンプル数はかなり少なく、また買物環境と友人・知人宅訪問との間に直接的な関連は認めがたいので、今回認められた関連は偶然によるものと考えられる。

#### ③生活スタイルとの関連(表18)

「友人・近所との付き合い」や「教室・サークル・スポーツ」を重視する人で、友人・知人宅訪問の全外出度数が多くなっている。地縁関係や自分の趣味などを通じて知り合った友人関係を大事にしている人は、そのための外出が多くなると考えられる。

### (7) 散歩

#### ①属性との関連(表16)

散歩の外出者率は最も低いが、外出者の外出度数が食料品買物に次いで多いため、全外出度数も5.1回と食料品買物に次いで多い。したがって、散歩活動の全外出度数は最も個人差が大きく、性別、年齢、車運転能力、配偶者の有無、子供数によって全外出度数に差がみられる。

まず、男性や前期高齢者は身体的機能が比較的高いため、散歩の全外出度数が多い。車運転可能者の散歩全外出度数が多いのは、車運転可能者には男性が多いためもあるが、車運転者が普段の運動不足を意識していることにもよると考えられる。また、配偶者有りの人の方が無い人よりも全外出度数が多いのは、配偶者有りの人に男性や前期高齢者が比較的多いことも関係しているが、それだけでなく散歩は一人ではなく夫婦2人で行う人が多いことを反映していると考えられる。さらに子供がいない世帯で全外出度数が高いのは、自分や配偶者の健康を高齢者自身が気遣っているためと思われる。

#### ②生活環境評価との関連(表17)

生活環境評価と散歩の全外出度数との間には、特に関連は認められなかった。

#### ③生活スタイルとの関連(表18)

「散歩」を重視する人の散歩の全外出度数は12.2回とかなり多い。また、「個人的趣味」を重視する人も全外出度数が多いが、個人的趣味の中には自分の健康や体力作りに関連するものが含まれているためかもしれない。逆に「家でゆっくり過ごす」や「仕事」を重視する人はあまり散歩のための外出をしていない。外での活動を好まないことや時間的余裕のなさが関係しているであろう。

## Ⅷ. 総外出度数からみた高齢者の外出行動の促進要因と抑制要因 －まとめにかえて－

### 1. 総外出度数の算出

「Ⅶ. 全外出度数からみた高齢者の目的別外出行動」では、外出者だけでなく非外出者も含めた高齢者全体について、外出行動別に外出度を算出し、各外出行動の規定要因(促進要因、抑制要因)を、高齢者の属性、生活環境評価、生活スタイルの各側面から考察した。

ここでは、7つの外出行動の外出度を単純に合計した総外出度数に基づいて外出行動の規定要因(促進要因、抑制要因)について考察する。高齢者の属性、生活環境評価、生活スタイル毎の総外出度数については、前掲の表16、表17、表18に示してある。ただし、散歩は前述したように全外出度数が多い上に個人差も大きいため、散歩を除く6つの外出行動を合計した外出度数も算出した。

### 2. 高齢者の外出行動の規定要因

#### (1) 属性との関連(表16)

総外出度数と属性との関連をみると、年齢、一人での外出可能性、子供数、家族数、就業状況の5つと関係していることが分かる。散歩を除いた6外出行動の計では、一人での外出可能性、子供数、就業状況の3つに加えて、性別も関連していることが分かる。

これらの関連属性は、大きく分けると①身体的機能(年齢、一人での外出可能性)、②家族状況(子供数、家族数)、③社会的関係(性別、就業状況)の3つに分けることができる。

#### ①身体的機能(年齢、一人での外出可能性)

一人で外出可能で年齢が若い高齢者ほど総外出度数が多いのは、身体的機能との関係から当然のことと言えよう。特にそれは最も全外出度数が多い食料品買物で顕著である。ただし、通院のための外出は逆に作用し、一人で外出可能で年齢が若い高齢者ほど全外出度は少ないが、それが総外出度数に与える影響は小さい。

#### ②家族状況(子供数、家族数)

家族状況についてみると、家族数が3人以上の世帯では、2人以下の世帯(単身世帯と高齢者のみの世帯が主)に比べて、総外出度数が有意に少ない。また、2人以上の子供と同居している高齢者も、子供一人と同居または子供と同居していない高齢者と比べて総外出度数が有意に少ない。同居している子供が一人の場合の子供を男女別にみると、男性の子供一人と同居している場合は総外出度数が30.0回と多いが、子供が女性の場合は26.0回と少ないことが分かった。

これらのことをまとめると、高齢者のみの世帯や女性の子供がいない世帯の高齢者は、外出しやすいと言える。その理由としては、個々の外出行動の分析では必ずしも有意な関係として現れなかったが、買物活動を代替してくれる家族が不在のため高齢者自身が外出せざるをえないことや、家族内では十分には満たされないコミュニケーション相手(例えば、同じ年代の人や共通の趣味をもつ人)とのふれあいを求めて外出し、結果的に総外出度数が多くなっていると考えられる。

#### ③社会的関係(性別、就業状況)

男性は散歩を除いた6外出行動の総外出度数が女性よりも有意に少ない。男性には比較的有職者が多い(サンプル男性の22%、女性の8%を占める)ことも影響しているが、無職者に限ってみても男性21.7回、女性25.9回と、男女差は大きい。男性が有意に少ないのは、買物のための

外出と家族以外の人とのコミュニケーション(趣味活動や友人・知人宅訪問)に関わる外出行動である。男性の場合、多くの人が退職などに伴って生活のライフサイクルや人間関係が大きく変化するが、そのような日常生活における社会的環境の変化に十分に適応できない人が少なくないのであろう。

また、有職者も総外出度数が少ないが、状況はかなり異なっている。有職者は日常生活では仕事を優先的に行わざるを得ないため、仕事以外のことを行う時間的余裕があまり無い。そのため有職者は、本研究で取り上げた7つの外出行動を全体的に抑制せざるを得ないのは当然のことと言えよう。ただし、有職者は仕事に関わる外出行動を頻繁に行い、人とのコミュニケーションも無職者よりは多いと考えられるので、有職者の総外出度数が少ないことに特に問題があるわけではない。しかしながら、有職者であっても特に男性の場合は、離職後は上記のような社会的環境の変化に直面することになり、地域社会との関係が外出行動に影響を及ぼすことが予想される。

## (2) 生活環境評価との関連(表17)

歩行環境評価と総外出度数との間に関連がみられ、総外出度数が多い人は歩行環境をかなり良く評価する人とかなり悪く評価する人の両極に分かれている。しかしながら、歩行環境が良いと評価している人がそのために外出が活発になるということは考えられるが、悪く評価している人にはその理由はあてはまらない。これは前述した通院の総外出度数とバス環境評価の間にみられた関係のように、他の理由で活発に外出する結果、周辺の歩行環境の悪さに気づきやすくなったとは言えないだろうか。

いずれにしても、生活環境評価の違いによって外出行動が促進されるあるいは抑制されるということはほとんどなかった。逆に生活環境によっては、外出行動の結果、生活環境評価がその影響を受ける可能性があることが示唆された。

## (3) 生活スタイルとの関連(表18)

### ①外出行動を促進する生活スタイル

7つの外出行動の総外出度数の全平均は28.1回だが、それを有意に上回った日常生活で重視する活動(生活スタイル)は、多い順に散歩(35.5回)、教室・サークル・スポーツ(34.0回)、ボランティア活動(33.4回)、個人的趣味(30.4回)の4つであった。基本的には各生活スタイルと直接的または間接的に関係する外出行動の全外出度数が多いために総外出度数が多くなっている。

例えば、「散歩」重視者の全外出度数が非重視者を8.8回(=12.2-3.4)上回っているために、その差が総外出度数に反映している。ただし、散歩外出行動を除いた他の6外出行動計では、「散歩」重視者と非重視者との間にほとんど差はない。また、「個人的趣味」重視者は、趣味活動だけでなく、生活用品買物、散歩の全外出度数が有意に多い。「教室・サークル・スポーツ」重視者は、趣味活動の全外出度数が多いのは当然として、その活動との関連から衣料品買物や友人・知人宅訪問の全外出度数も多くなっている。このように各生活スタイルと直接的または間接的に関係する外出行動の全外出度数は密接に関連していることがわかる。

一方、「ボランティア活動」重視者は、有意な差がみられた食料品買物以外にも、有意な差ではないが趣味活動や散歩の全外出度数でも非重視者より多く、特に男性にその傾向が特徴的に認められた。今回取り上げた7つの外出行動には、「ボランティア活動」と直接的または間接的に関わるものは特にはないが、「ボランティア活動」重視者は全般的に積極的に外出しているこ

とが分かる。

以上のように、余暇を自分の趣味やボランティア活動などに打ち込んでいる高齢者は、それと直接関わる外出行動が多くなるだけでなく、他の外出行動も誘発され、そうでない高齢者に比べて積極的に外出していることがわかる。

## ②外出行動を抑制する生活スタイル

一方、7つの外出行動の総外出度数の全平均28.1回を有意に下回った生活スタイルは、少ない順に「仕事」(19.7回)、「家でゆっくり過ごす」(22.3回)、「通院」(24.4回)の3つであった。

「仕事」を重視している人は、時間的制約から買物や散歩を中心にここで取り上げた7つの外出行動にあまり時間を費やすことができない。その結果、総外出度数が少なくなることは当然のことと言える。

また、「通院」を重視している人には、非重視者より身体的機能が低下している人が多いと考えられ、そのために外出行動が抑制されるのやむを得ないことであろう。結果的に一般的に全外出度数が多い食料品買物や趣味活動を中心に、通院以外の外出行動は抑制されることになる。

「家でゆっくり過ごす」ことを重視する人は、通院を重視する人よりも総外出度数が少なく、特に趣味活動と散歩が少ない。外に出て家族以外の人とコミュニケーションを取ることや体を動かすことを、基本的に好まない人が多いと思われる。しかし一方で、結果的に「家でゆっくり過ごし」さざるを得ない人が少なくない可能性もある。特に男性にみられるように、退職に伴う日常生活の環境変化にうまく適応できず、地域社会と関わりたいと思っても、そのきっかけをつかめないのかもしれない。

## (4) まとめ

以上のように、高齢者の属性、生活環境評価、生活スタイルの側面から、総外出度数に基づいて外出行動の規定要因(促進要因、抑制要因)について考察してきた。促進要因と抑制要因は言わば表裏一体の関係にあるので、規定要因を抑制要因を中心に整理してみると、①高齢者自身の要因(身体的・精神的要因)、②高齢者を取り巻く環境要因(自然的・社会的要因)、③高齢者と社会との関係要因の3つにまとめられる。

①の外出行動を抑制する高齢者自身の要因は、高齢者の年齢や病気などの身体的要因と、家族以外の他者とはあまり積極的に関わりたくないという生活スタイルに代表される価値観・人生観などの精神的要因に大別される。

②の高齢者を取り巻く環境要因には、歩行環境に代表される自然的環境要因(主には地形の起伏)と買物環境・施設環境・バス環境などの社会的環境要因がある。ただし、前者には不満な人が多く、後者については比較的良い評価がなされたものの、今回の研究ではいずれの要因とも総外出度数との関連は認められなかった。

③高齢者と社会との関係要因とは、高齢者の日常生活が高齢者を取り巻く社会(特に地域社会)とどのような関係にあるかということである。離職した男性のように社会(特に地域社会)との関わりが弱ければ、外出行動は積極的には行われにくい。

これら3つの要因は相互に密接に関係しあっている。現在は高齢者の多くが外出手段に自家用車を利用しているため、環境要因はあまり重要ではないが、加齢や病気等で車の運転ができなくなってくると自由な外出行動が制約され、その結果として歩行環境だけでなく、買物環境・施設環境・バス環境などにも不満を持つ人が増えてくる可能性が高い。それに対して松園地域



の環境をどのように整備していけばよいのか、課題解決に向けて早急に検討する必要がある。

また、病気や加齢に伴い社会とのつながりが次第に弱まっていく人や、離職後社会(特に地域社会)ともっと関わりを持ちたいと思ってもそのきっかけをつかめない人に対して、地域社会はどのような役割を果たせばよいのか。現在は地域社会とあまり関わりを持たず、家族などの身近な人に支えられて生活している人でも、将来は家族も高齢化し、家族だけでは互いに支えきれなくなる可能性が高い。その時、高齢者と地域社会の関わりはどうあるべきなのか。これらの課題は、松園地域だけでなく他の郊外住宅地にも共通する重要な課題であると考えられる。本研究では、これらの課題に対する対応策を提示することはできなかったが、今後の研究課題としたい。

**<付記>** 本研究は、平成20年度岩手大学人文社会科学部人間科学課程行動科学コースの特別研究(卒業論文)として、コース所属の4年次学生土田美奈子が行った調査・研究をもとに、指導教員の高橋宏一が再集計・再分析してとりまとめたものである。調査には松園地域の300名を上回る高齢者の方にご協力頂いた。また、調査にあたっては松園地区活動センター館長の大河原伸一氏には、多大な御尽力を頂いた。改めて皆様に感謝申し上げます。